

ケル

中国・珠海工場が本格稼働 海外売り上げ拡大への体制づくりを強化

社長
春日明



2025年8月に、新工場の中国・珠海工場（広東省珠海市）が本格稼働した。大型案件も獲得できているため、今年度下期業績への貢献を期待している。

26年のコネクタ市場は、特にAI（人工知能）データセンター・サーバーや、その周辺機器などでの需要増が見込まれる。当社の事業環境としては、工業機器向けの回復が見込まれ、珠海でのビジネスも堅調な進展を予想している。珠海工場産品は現在は工業機器向けだが、下期後半から26年度に向け、車載製品も立ち上がる。

当社は、25年4月からの第1次長期経営計画「KEL VISION 2030」では30年度（31年3月期）に売上高200億円、営業利益率15%以上を掲げ、中期経営計画（3カ年）では最終年度の27年度に売上高155億円、営業利益率15%を目標に置いている。

26年度は、経営ビジョンである「コネクタメーカーとして、世界に貢献できる企業になる」に沿

って、今後も海外売り上げ拡大に向けた体制強化を図っていく。

海外売り上げ拡大に向け、開発力・供給力・販売力を強化し、コア技術である「フローティング」「高速伝送」「防水」「ハイパワー」の技術を強化して、これらの製品を顧客要求に対し、付加価値を付けた形で提案していく。

ほかのコネクタメーカーとの協業も進めている。25年4月に日本端子との相互販売提携を発表し、25年7月にはイリソ電子工業と共同で車載用小型同軸コネクタの試作開発を公表した。これらにより事業の時間短縮につなげる。イリソ電子工業との共同開発製品は、26年度の製品化を目指している。

販売力強化では、インドやASEANの顧客対応強化のため、26年1月にシンガポールに現地販売拠点を開設する予定。ターゲットは車載市場で、現地でのスペックイン活動を推進する。シンガポール拠点は当社の海外子会社としては7拠点目。海外展示会を活動した商品のPRにも引き続き力を入れていく。

海外売上比率は、現在は4割程度だが、27年度には52%前後に高める計画。国内では、1月13日付で、「多摩センターオフィス」を開所する。本社内にあった営業部門を多摩センター駅前のアクセスの良い場所に移転することで、機動力を高めていく。